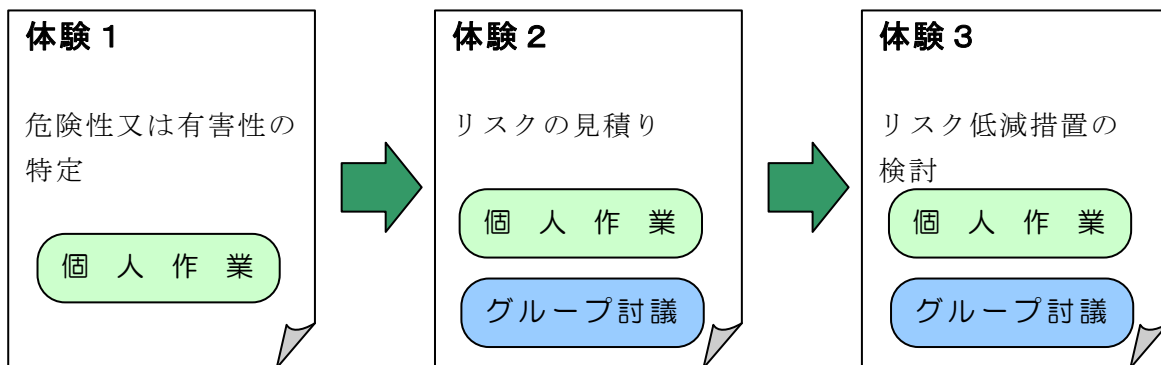


第4章

リスクアセスメントの 体 験

リスクアセスメントの体験シナリオ

ここでは、これまで学んだリスクアセスメントについて、下記の課題（イラスト）を例に体験してみましょう。体験していただく内容は、リスクアセスメントのステップのうち3つのステップです。



課題



体験1 危険性又は有害性の特定

〔個人作業〕



前ページのイラスト（課題）をみて、どんな危険性又は有害性があり、それによって、どんな災害が発生するのかを想定しながら、次の「危険性又は有害性の特定票」を用いて、危険性又は有害性と発生のおそれのある災害を表現してみましょう。

イラストに隠された危険の芽と発生のおそれのある災害は、1つや2つだけではありません。イメージを膨らませて発生しそうな災害を記入用紙の「危険性又は有害性と発生のおそれのある災害」欄に記録します。

危険性又は有害性の特定票

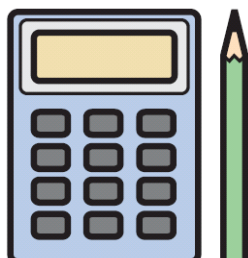
① 危険性又は有害性 「～に、～と」	② 人 「～が」
例) 階段	例) 作業員
③ 危険性又は有害性と人が接触する状態 「～するとき、～するため」	
例) 階段の清掃	
④ 安全衛生対策の不備 「～なので、～がないので」	
例) 後ろ向きで同じ階段上に両足を揃えている	
⑤ 負傷又は疾病の状況 「(事故の型) + (体の部位) を～になる、～する」	
例) 足を踏みはずして転落し、足を骨折	

上記の①～⑤を統合して、「危険性又は有害性と発生のおそれのある災害」を表現する。

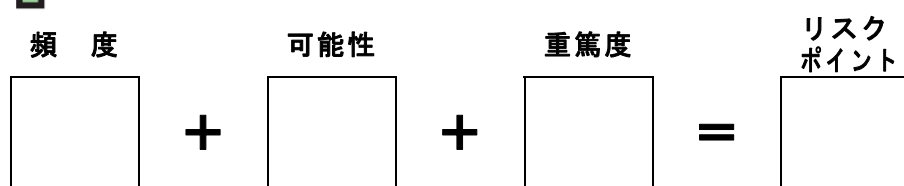
例)
作業員が、階段の清掃作業をしているとき、同じ階段状に両足を揃えていたので、足を踏みはずして転落し、足を骨折する。

体験2 リスクの見積り

〔個人作業〕



特定されたリスクについて「**リスクが発生する頻度**」「**リスクが発生したときに負傷又は疾病になる可能性**」「**負傷又は疾病の重篤度**（災害の程度）」という3つの要素による『加算方式』でリスクを見積り、記入用紙の「**リスクの見積り**」欄に記入します。



頻 度	点数	内 容 の 目 安
頻 繁	4	1日に1回程度
時 々	2	週に1回程度
ほとんどない	1	半年に1回程度

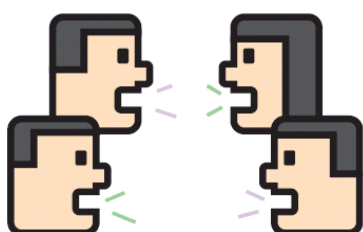
可 能 性	点数	内 容 の 目 安	
		危険検知の可能性	危険回避の可能性
確実である	6	事故が発生するまで危険を検知する手段がない	危険に気がついた時点では、回避できない
可能性が高い	4	十分な注意を払っていないければ危険がわからない	専門的な訓練を受けていないければ回避の可能性が低い
可能性がある	2	危険性又は有害性に注目していれば危険が把握できる	回避手段を知っていれば十分に危険が回避できる
ほとんどない	1	容易に危険が検知できる	危険に気がつけば、けがをせずに危険が回避できる

重篤度	点数	災 害 の 程 度・内 容 の 目 安
致命傷	10	死亡や永久的労働不能につながるけが 障害が残るけが
重 傷	6	休業災害（完治可能なけが）
軽 傷	3	不休災害（医師による措置が必要なけが）
軽 微	1	手当後直ちに元の作業に戻れる微小なけが

リスク	点数 (収束点)	優先度	取扱基準
IV	12～20	直ちに解決すべき問題がある	直ちに中止または改善する
III	9～11	重大な問題がある	早急な改善が必要
II	6～8	多少問題がある	改善が必要
I	5以下	必要に応じて低減措置を実施すべきリスク	残っているリスクに応じて教育や人材配置をする

〔点数が高いほど優先度が大〕

〔グループ討議〕



〔個人作業〕で見積ったリスクの見積り結果について、グループ全員が1人ずつ発表します。

発表の結果、グループ内の意見が異なったときは、3つの要素の点数についてグループで討議し、意見の統一を図ります。

体験3 リスク低減措置の検討

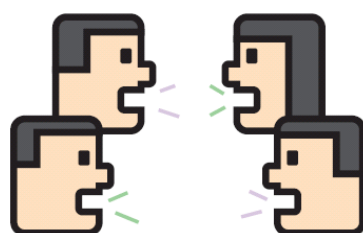
〔個人作業〕



危険性又は有害性と発生のおそれのある災害について、どのようなリスク低減措置が必要かその案を考え、記入用紙の「リスク低減措置案」欄に記入します。リスク低減措置案は、可能な限り49頁の優先順位の高いものから考えましょう。

また、考えたリスク低減措置案を実施した場合の予測見積りについても、記入用紙の「措置案想定リスクの見積り」欄に併せて記入してください。

〔グループ討議〕



〔個人作業〕で考えたリスク低減措置案についてグループの全員が1人ずつ発表します。

ここでは、経験等による様々な低減措置のアイデアが出されると思われるので、発表されたリスク低減措置案からグループとして統一した案にまとめましょう。

体験1, 2 記入用紙

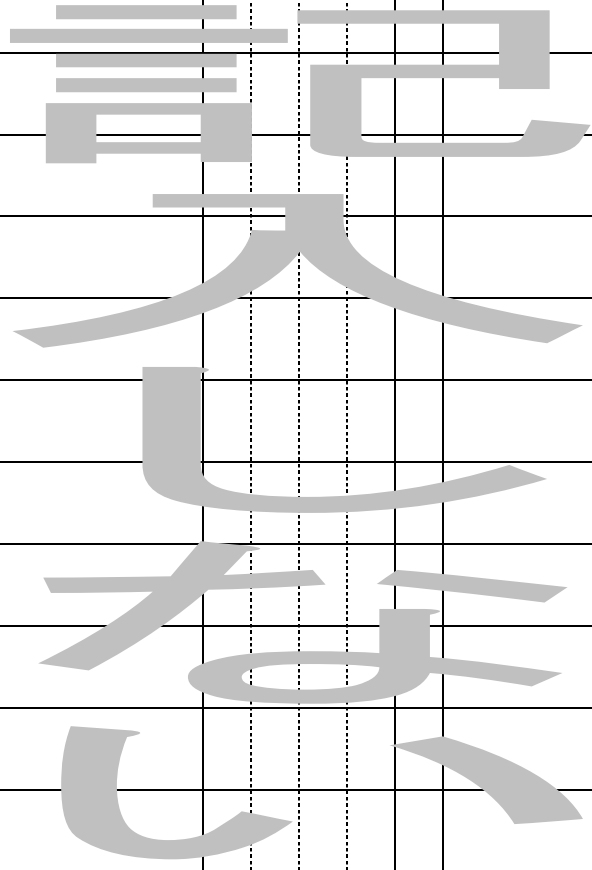
事業場名	
氏名	

グループメンバー名					

体験1 記入欄

体験2 記入欄

作業名 (機械・設備)	危険性又は有害性と発生のおそれのある災害 (災害に至る過程として「～なので、～して」+「～になる」と記述します)	リスクの見積り					リスク低減措置案	措置案想定リスクの見積り					備考 (残留リスクについて)
		頻度	可能性	重篤度	合計点数	リスク		頻度	可能性	重篤度	合計点数	リスク	
(記入例) 階段の清掃作業	作業者が、階段の清掃をするとき、後ろ向きで同じ階段上に両足をそろえていたので、足を踏み外し、階下まで転落して足を骨折する。												
階段の移動													



体験3 記入用紙

事業場名	
氏名	

グループメンバー名					

体験3 記入欄

作業名 (機械・設備)	危険性又は有害性と発生のおそれのある災害 (災害に至る過程として「～なので、～して」+「～になる」と記述します)	リスクの見積り					リスク低減措置案	措置案想定リスクの見積り					備考 (残留リスクについて)
		頻度	可能性	重篤度	合計点数	リスク		頻度	可能性	重篤度	合計点数	リスク	
(記入例) 階段の清掃作業	作業者が、階段の清掃をするとき、後ろ向きで同じ階段上に両足をそろえていたので、足を踏み外し、階下まで転落して足を骨折する。	2	4	6	12	IV	・背負い式真空装置を使用し、下から上への前進作業に変更する。 ・足は段違いに置く	1	2	6	9	III	
階段の移動	作業者が、3階から2階に掃除機を持って降りるとき、掃除機で足元が見えなかったため、足を踏み外して転落し、腰を打撲する。	2	2	6	10	III							
窓拭き作業	作業者が、外側のガラスを布で拭き掃除をしているとき、布が手から滑り落ちそうになったので、バランスを崩し転落し、全身強打して死亡する。	1	4	10	15	IV							
窓拭き作業	作業者が、椅子の座面を踏み台にして乗ったとき、椅子が倒れて足を骨折する。	2	4	6	12	IV							
床清掃作業	作業者は、後ろ向きでポリッシャーを使用しているため、バケツと接触し倒れてプラグが濡れて、コンセントの入り切りのとき感電する。	1	4	10	15	IV							
床清掃作業	作業者は、後ろ向きでポリッシャーを使用しているため、椅子と接触し転倒して足を捻挫する。	2	2	3	7	II							

記入例

作業名 (清掃作業)	危険性又は有害性と発生のおそれのある災害 (災害に至る過程として「～なので、～して」 +「～になる」と記述します)	リスクの見積り					リスク低減措置案	措置案想定 リスクの見積り					備考 (残留リスクについて)
		頻度	可能性	重篤度	合計点数	リスク		頻度	可能性	重篤度	合計点数	リスク	
1. 窓拭き作業	①作業者が、椅子の座面を踏み台にして乗ったとき、椅子が倒れて足を骨折する。	2	4	6	12	IV	・専用の踏み台を使用する。 ・窓枠に乗らない作業を徹底する。	1	2	3	6	II	安全作業の教育を徹底する。
	②作業者が、椅子を踏み台にして窓枠に乗ったとき、椅子が倒れて外へ転落し、全身強打し死亡する。	1	4	10	15	IV	・専用の踏み台を使用する。 ・窓枠に乗らない作業を徹底する。	1	2	3	6	II	安全作業の教育を徹底する。
	③作業者が、外側のガラスを布で拭き掃除をしているとき、布が手から滑り落ちそうになったので、バランスを崩し転落し、全身強打して死亡する。	1	4	10	15	IV	安全帯の使用及び保護帽を着用する。	1	2	10	13	IV	残留リスクは大きいので防護柵の設置又は防護ネット使用の検討。
2. 床清掃作業	①作業者は、後ろ向きでポリッシャーを使用しているので、椅子と接触し転倒して足を捻挫する。	2	2	3	7	II	事前確認により、椅子を片付ける	1	1	1	3	I	
	②床清掃作業者は、後ろ向きでポリッシャーを使用しているので、窓拭きをしている作業者と接触し、窓拭き作業者が外に転落し、全身強打し死亡する。	1	4	10	15	IV	床清掃と窓拭きの作業時間を分ける	1	1	1	3	I	
	③作業者は、後ろ向きでポリッシャーを使用しているので、バケツと接触し倒れてプラグが濡れて、コンセントの入り切りのとき感電する。	1	4	10	15	IV	・防水プラグ・コンセントに改善する。 ・整理整頓し作業の邪魔にならない場所に置く。	1	1	3	5	I	
	④作業者が、ポリッシャーで床清掃作業をしているとき、コードの外装に亀裂があり洗浄液に漏電し感電する。	1	4	10	15	IV	・作業前の点検を徹底する。 ・整理整頓し必要以上にコードを伸ばさないようにする。	1	1	10	12	IV	作業の手順書を作成し徹底する。また、職場の管理者による指導を徹底する。
	⑤作業者が、ポリッシャーで床清掃作業をしているとき、回転ブラシにコードを巻き込まれ コードの外装が破損し感電する。	1	4	10	15	IV	・作業前のミーティングで指導する。 ・整理整頓し必要以上にコードを伸ばさないようにする。	1	1	10	12	IV	作業の手順書を作成し徹底する。また、職場の管理者による指導を徹底する。
	⑥作業者が、ポリッシャーで床清掃作業をしているとき、濡れた床で滑って転倒し、腰を打撲する。	2	4	3	9	III	耐滑性安全靴の装着を徹底する。	1	2	3	6	II	
	⑦作業者が、ポリッシャーで床清掃作業をしているとき、ポリッシャーのコードが足に絡まって転倒し、足を捻挫する。	2	2	3	7	II	コードさばきの教育をする。	1	1	3	5	I	
3. 階段の清掃作業	①作業者が、階段の清掃をするとき、後ろ向きで同じ階段上に両足をそろえていたので、足を踏み外し、階下まで転落して足を骨折する。	2	4	6	12	IV	・背負い式真空装置を使用し、下から上への前進作業に変更する。 ・足は段違いに置く	1	2	6	9	III	作業前のミーティングで徹底する。

記入例

作業名 (清掃作業)	危険性又は有害性と発生のおそれのある災害 (災害に至る過程として「～なので、～して」 +「～になる」と記述します)	リスクの見積り					リスク低減措置案	措置案想定 リスクの見積り					備考 (残留リスクについて)
		頻度	可能性	重篤度	合計点数	リスク		頻度	可能性	重篤度	合計点数	リスク	
4. 階段の移動	①作業者が、3階から2階に掃除機を持って降りるとき、掃除機で足元が見えなかったため、足を踏み外して転落し、腰を打撲する。	2	2	6	10	Ⅲ	階段で物を運ぶときは片手に持ち、もう一方は手すりを利用する。	1	1	6	8	Ⅱ	作業前のミーティングで徹底する。
	②作業者が、2階の床に下りたとき、立てかけてあった掃除道具に乗って転倒して、足を骨折する。	2	2	6	10	Ⅲ	掃除道具の整理整頓を徹底する。	1	2	6	9	Ⅲ	

